

# 山形県東田川郡三川町方言の比喩語について

佐藤 亮一 篠崎 晃一

## はじめに

1. 三川町は山形県庄内地方のほぼ中心部に位置する。人口約8300。庄内米「ささにしき」を主産物とする農業の町である。1987年より毎年「全国方言大会」を開催していることでも知られる。調査対象集落は横内（よこうち）を中心とし、土口（どぐち）の中年層話者の回答も加えた。三川町は東郷地区の方言がやや他と異なるが、対象とした両集落の方言は、ほぼ等質とみなされる。

## 2. 調査年月日・調査場所・話者・調査者

① 1993年3月24日午後2時～4時半 大字横内字日野宮 志田宅

話者 志田徳右エ門氏（大正12年現住所生まれ。69歳）

同席者 志田茂子氏（徳右エ門氏夫人。昭和3年生まれ。東田川郡藤島町＝三川町の隣町出身）

調査者 佐藤亮一 篠崎晃一

② 1993年4月25日午後2時～4時 志田宅

話者 志田徳久氏（昭和26年日野宮生まれ。42歳）

同席者 志田茂子氏

調査者 小川 民（フェリス女学院大学大学院修士課程修了生）

内田典子（同 修士課程2年）

③ 1993年5月2日午後2時～8時 篠崎晃一自宅

話者 佐藤武夫氏（昭和23年大字土口字御蔵下生まれ。45歳。三川町方言研究会会長。全国方言大会初代委員長）

調査者 佐藤亮一 篠崎晃一

調査の手順は、①で調査した結果に②の調査結果を加え、③では、①②の内容を確認した上で、さらに補充調査を行った。

## 3. 表記・表示

表音的仮名表記を用いた。この方言は「シ」と「ス」、「ジ」と「ズ」、「チ」と「ツ」、「イ」と「エ」の区別がなく、両者の中間的な音で発音されるが、本稿では、これらを「ス」「ズ」「ツ」「エ」と表記した。また、ガ行鼻音は「ガギグゲゴ」で表した。志田徳右エ門氏・志田徳久氏・佐藤武夫氏の回答が異なる場合には、話者名を「右」「久」「武」の記号で示した。話者の発言であることを示す必要があると判断した場合には、発言内容を〈 〉に入れて示した。ただし、話者の回答した語形や意味・用法に関する説明は、原則として、〈 〉に入れなかった。とくに高年層または中年層

が多く用いられる語には、「高」「中」の記号を付した。また、筆者（佐藤・篠崎）の見解は「考」の記号の下に記した。共通調査項目は比喩語であるか否かにかかわらず、その調査結果を記し、その中で比喩語であると判断される形式には「喩」の記号を付した。ただし、[ニユードーグモ]（入道雲）[スモバストラ]（霜柱）のように、共通語形が比喩語であり、話者の回答も共通語形である場合には「喩」の記号を省略した。なお、追加項目のうち、比喩語と認定した語には「※（喩）」の記号を付け、各意味分野の関連する項目の近くに排列した。

#### 4. 感想など

比喩語と認定される語形は意外に少なく、共通調査項目では77項目中17例、その他の追加項目（方言辞典を参考にして、比喩語が出る可能性があると考えて調査した約200項目）でも計30例を採集したにとどまった。比喩語の定義、認定の基準については問題が多いが、紙幅の都合で、筆者の判定基準に関する記述を省略する。

### 調査結果

#### I 〈自然現象〉

##### 1. 日照り雨 テンキアメ ムラサメ

※（喩）キツゲヅラ（気遣い空） 晴れたり、曇ったり、降ったり、変りやすい天候。

※（喩）カズサメ（火事雨） 火事の出たあと降る雨。[カズサメ フテケレバ イーチャ]（火事雨が降ってくればいいね）

##### 2. 入道雲 ニュードーグモ

##### 3. 旋風 マギガジェ（巻風）

##### 4. 霜柱 スモバストラ [スモバストラ タタ]（霜柱が立った）

##### 5. つらら タロギ [タロギ サガタ]（つららが下がった）

##### 6. 北斗七星 ホグドスズセ <学校で習った言葉。日常生活で星を話題にすることはほとんどない>

##### 7. 無回答 <名を知らない>

##### 8. 流れ星 ナガレボス

#### II 〈動物〉

##### 9. かわはぎ（喩）ンマズラ（馬面） 馬の顔に似ているから。

##### 10. ひらめ ヒラメ

##### 11. ひきがえる フグダビッキ

##### 12. 青大将 アオダイショ

※（喩）ツズムヅリ（土もぐり） <蛇の種類は分からない。60センチくらいの小さな

蛇。土にもぐっているから>

※(喩)クツヘビ(糞蛇) <蛇の種類は分からない。黒い蛇。まむしではない>

「考」……とぐろをまいたようすが、たれ糞に似ているからか。

13. とかげ トガゲ [トガゲ イッダ] (とかがが居る)

14. カマギリ(右) カマギリ(武)

※(喩)カマギリオドリ 酔ってふらふらの状態で踊ること。かまきりに酒を飲ませると、ふらふらになって踊ったようになることから。[カマギリオドリ シッダ] (かまきり踊りをしている)

※(喩)カマギリ ひどく酔った人をたとえていう言葉。[アノヤズ カマギリミダ]

15. みずすまし ゲンゴロムス

(喩)ガニャムス 手足を広げて泳ぐから。手を広げて物をつかむ状態を「ガニャット」と表現する。[(菓子)を)ガニャット ッガム]

16. きつつき キズズギ <この辺にはいない。学校で習った言葉>

17. せきれい 無回答 <「カネタダギ」という鳥の名を知っているが、せきれいのことかどうか自信がない> (武)

※(喩)カネタダギ(右) 雀の一種。鳴き声が鐘を叩く音に似ているから。

「考」……『庄内方言辞典』(佐藤雪雄著。東京堂出版)によれば「カネタダギ」の見出しで「くいな。羽黒」とある。羽黒は三川に隣接する町である。あるいは話者の勘違いか。

18. ふくろう ラグロ

※(喩)カラストンボ(烏とんぼ) 羽が黒いとんぼ。

### III (植物)

19. 馬鈴薯 (喩)ニドイモ(二度芋) 年に二度収穫する地域があり、それに由来する命名か。ただし、三川町では年に1回、秋に収穫する。

20. とうもろこし キンビ

(喩)カスキビ <とうもろこしの一種。食べるとモクモクする。語源不明だが「菓子きび」または、「糟きび」か> (武)

「考」……『日本言語地図』の「とうもろこしの」の図によれば、「カシキビ」

「クシキビ」は佐渡島全域のほか新潟県沿岸地域と山形県庄内地方にわずかに見られる。この語は『物類称呼』に「菓子きび」として記載されている。

21. いんげん豆 ササギ

22. そら豆 (喩)ケツツマメ(尻豆)(右) (喩)ケツツマメ(武) 「ケツツ」とは「尻」のこと。尻に似ているから。[ケツツマメ トレダ] (武)

23. 木くらげ キグラゲ

24. げんのしょうこ ゲンノショゴ  
 25. どくだみ ドグダビ  
 26. いたどり ドンゴエ  
 27. からすうり カラスウリ <油がしもやけに利く> (武)  
 28. すみれ スミレ [スミレ サイツダ] (すみれが咲いている)  
 29. 春蘭 無回答 <名を知らない>  
 30. 母子草 無回答 <名を知らない>  
 31. ねむの木 (喩) コギノキ (右) <手でコグ(しごく)と葉が眠ったような状態になるから> (右)

※ (喩) ヘビイズゴ (蛇莓) 蛇など、人以外の動物が食べるという意で、野いちごのこと。

※ (喩) キザラス 洪をぬくことをサラスというところから、アルコールを使わず木に成ったまま洪がぬけた甘柿のこと。

#### IV (性向)

32. 熱しやすく冷めやすい人 無回答  
 ※ (喩) アンジトドガネ 何でも手をつけるが、最後までやり遂げることができないこと。[チニヤッテモ アンジトドガネヤツダ] (何をやっても最後までできない人だ) 「考」……虹のことをノジと言うところから、虹に手が届かないという意か。  
 33. あわてん坊 無回答  
 34. 動作の鈍い人 メンドクセヒト (面倒臭い人) (右)  
 ヤグダネ (役立たない) (武) ヤグダズヤロ (武) 能力がなくて仕事ののろい人。  
 インクズ (陰口?) (武) それほど効果があるわけではないのにばかていねいに、ゆっくりと仕事をする人。または、やたらに口を出す人。素直でない人。  
 へりくつを言う人にも使う。[アノヤズ インクズダ]  
 ※ (喩) キョーノモノ ナンネ 今日中に仕事が終わらなくなってしまうという意で、もたもたした人のこと。  
 35. 嘘つき ウソコギ (武) ウソコギ (武)  
 36. ほらふき ホラフギ (武) ホラフギ (武) ホラコギ (右・武) (稀)  
 ダボラコギヤロ (武)  
 37. おしゃべり サベチョ あたりにうわさをまきちらす人。[マズ アンヒトダバ サベチョデ] 「サベチョ コグ」 (おしゃべりする。言いふらす) とも言う。  
 38. 冗談言い 人物を指す言葉はない。

オドゲル(動) はしゃぐ。冗談を言う。とくにゼスチャーつきで冗談を言うこと。[アノヒドダバ マズ オドゲデ ワラワシェデ]

39. 口先だけの人 人物を指す言葉はない。

クジャバリイ(連語) (口ばかり良い)

40. とんちんかんなことを言う人 人物を指す言葉はない。

イックレテング(良いくらい大概) いいかげん。でたらめ。[イックレテング ナコド イッテ]

※(喩) ジョンベゲース(右) 十べん返すという意で、口答えをすること。また、何度も同じことを繰り返して言うこと。

41. のらりくらりと煮えきらない人 ネグダコギ(右)。ネグダダヒド(武)。態度のはっきりしない人。(→61参照)

42. 怒りっぽい人 無回答 <[スグ カットステ] (すぐ、かっとして)、[キミズガデ] (気短かで) としか言わない>

43. 気むらな人 人物を指す言葉はない。

ハンチャラグ 仕事を中途はんばにして放り出すこと。あきっぽいこと。

44. 泣き虫 ナギミソ [トナリノコダバ ナギミソデ]

45. おてんば娘 テンボ 子どもに対して、男女ともに言う。高い木に平気で登るような大胆な子ども。

46. 腕白坊主 キカンボ

47. 出しゃばり イシェコギ 出しゃばり。生意気な人。威張って自己主張をする人。

「イシェコグ」(出しゃばる。威張る)とも言う。

「考」……「イシェ」は「威勢」か。

48. どこへでも顔を出す人 人物を指す言葉はない。

ハッシェカグサ クビツッコム 必要以上にいろいろなところに首をつっこむ。

才能を多方面に発揮する(発揮しすぎる=マイナス評価)

「考」……「ハッシェカグ」は「八才覚」か。

49. 家にこもって外出しない人 無回答

50. 小心者 ドッコギ 臆病者

(関連) ズグナス ズグナスヤロ 仕事ができない人。能力のない人。けんかしても負ける人。[アノヤズ ナニサステモ ズグナスヤロダ] 「ズグネ」(形)もある。

「考」……「ズグ」は「腕づく」の「づく」と関係があるか。

※(喩) カラマッツヤロー(武) ズグナスの人。マッチの軸がないという洒落。

51. 内弁慶 ウズベンケ

52. 人づきあいをしない人、社交性のない人

ツギアイワリヤズ ツドメワリヤズ [ツドメネバ ダメダ] (つきあわなければだめだ) [アッコネサ ツドメネバ ダメダモンダ] (お世話になった) あそこの家に(つきあいとして)手伝わなければいけない)

53. 妻に対して頭の上がない男 人物を指す言葉はない。[カガサ アダマ アガンネ] のように言う。
54. けち (喩) ニギリヤ (右) 金を握ったらはなさないから。
55. 欲張り ヨグタガリ

## V 《食生活》

56. 大食漢 オーマガライ 「マガラウ」はむしゃむしゃとむさぼるように食べること。  
[ヤシェハッタギノ オオマガライ] (やせの大食い)
57. ぼたもち ボダモズ (喩) ハンゴロス (半殺し) 半分しかつかず、ご飯でも餅でもない中途半端な状態だから。
58. 砂糖味が薄い サドゲネ (砂糖気がない) (武) (喩) ミシエヤノマエ ハシッタヨダ (店屋の前を走ったようだ) (右) 宴席などで酒が足りないとき、「酒屋の前、走ったようだ」または「酒屋の前、かけあしだ」と言う (右)。
59. 塩味が薄い ドンケネ 甘さが足りないときにも言う (武)  
(喩) ハナミズ (鼻水) ミデダ [コノオズゲ ハナミズミデダ]
60. 大酒飲み (喩) ザル [アノヤズサ サゲ ナンボ ノマシエデモ ザルダサゲ アデネ (かいがない)]

※ (喩) ザルアダマ 頭の悪いこと。ざるのように、知識が頭を素通りすること。

※ (喩) テーハズヘ (手八杯) 客よりも接待する側の人の方がどんどん飲み食いしてしまうこと。[トリモズ テーハズヘダ] (接待役の方がどんどん飲んでしまった) 「考」……手八杯、つまり手酌で八杯も飲んでしまうという意か。

61. 酒に酔ってくだをまく ネグダコグ ネグダタゲル (→41 参照)
62. 酒に酔って顔が赤くなる (喩) ベンケー (弁慶) [ベンケーミデ ナタ] (弁慶のようになった)。

※ (喩) ナマグサボージョ (武) またはナマグサボーチャー (右) 骨付きの肉や生の魚など、生臭いものを切るのに使うという意で、出刃包丁のこと。

## VI 《動作・様態》

63. 恥ずかしくて顔が赤くなる、そのさま ツラ ホデル [ツラ ホデデ カツカテユー] 「考」……「ホテル」(火照る)は比喩語とすべきか。
64. どしゃぶりの雨 (喩) マゲルヨーダ アメ 水をぶちまけたような雨
65. ずぶ濡れ、びしょぬれになる。そのさま 無回答

66. 服装がだらしないさま ビショ<sup>ナ</sup>ネ (美粧ない)  
 ビショ<sup>ナ</sup>ナス (喩) ショ<sup>ダ</sup>レ (塩垂れ) 服装がだらしない人。  
 ※ (喩) ショ<sup>ッ</sup>ペー ラダ 不潔な服装 長期間洗わないと汗くさくなって、なめるとしょっぱいから。上記の「ショ<sup>ダ</sup>レ」もこれと関係がある。
67. 髭がのび放題なさま (喩) ヤッ<sup>コ</sup>ヒダ 不精髭の一種。だらしくちょびちょびとまだらに生えた髭 (武) 「やっこ」は「乞食」の意。  
 ※ (喩) バンケア<sup>ダ</sup>マ ふきのとうをバンケというところから、ふきのとうが開いたときのような形をしているという意で、手入れをせずにぼさぼさになった頭のこと。  
 [バンケア<sup>ダ</sup>マミ<sup>デ</sup>ンダサゲ チャント トガ<sup>シ</sup>ェー] (ぼさぼさ頭みたいだからきちんとかしなさい)  
 ※ (喩) ス<sup>ズ</sup>メ スー クムヨーダ 雀の巣の形に似ているという意で、髪が乱れていること。
68. 厚化粧をしている人 人物を指す言葉はない。 [カベ (ヌリ) ア<sup>ズ</sup>イ<sup>チ</sup>ャ]  
 (化粧が厚いね) (武)、 [(スロ) カベ<sup>ミ</sup>ダイ ヌル] (右) のように言う。  
 ※ (喩) ビ<sup>ン</sup>ドロ ミ<sup>デ</sup>ダ (高) ガラス細工のように、ピカピカできれいだ。 [ビ<sup>ン</sup>ドロミ<sup>デ</sup>ナ イ<sup>ェ</sup>ダ] (ビードロのようにきれいな家だ)
69. 背丈の高い人 (喩) デ<sup>ン</sup>スンバ<sup>ス</sup>ラ (電信柱) (武)  
 ※ (喩) ヤ<sup>シ</sup>ェハ<sup>ツ</sup>タギ やせた人。ハツタギは庄内地方で「いなご」または「ばった」のこと。  
 ※ (喩) ホスカ<sup>ラ</sup>ビ<sup>ツ</sup>キ 干からびてからからになった蛙の姿に似ているという意で、やせ細っている人のこと。 [マー<sup>マ</sup> エ<sup>ッ</sup>コカ<sup>ネ</sup>ハ<sup>ゲ</sup> ホスカ<sup>ラ</sup>ビ<sup>ツ</sup>キミ<sup>デ</sup>ン ナ<sup>ツ</sup>タ] (ご飯をさっぱり食べないから、やせ細ってしまった)
70. 出ひたい <sup>デ</sup>ホ ひたいが出ていることを「メ<sup>デ</sup>ホ」(前<sup>デ</sup>ホ)、後頭部が出ていることを「ウ<sup>ス</sup>ロ<sup>デ</sup>ホ」(後<sup>ル</sup>デ<sup>ホ</sup>)とも言う。  
 ※ (喩) チ<sup>ス</sup>バ (茄子歯) 茄子が腐りかけたような茶色い色をしているという意で、虫歯などで黒くなっている歯のこと。
71. 汗がひたいから流れ落ちる 無回答 「ア<sup>シ</sup>ェ グ<sup>ッ</sup>チャ<sup>リ</sup>ダ」のように言う。
72. 目を丸くする (喩) ラ<sup>グ</sup>ロ テ<sup>ッ</sup>ポ<sup>ー</sup> オ<sup>ボ</sup>ゲ<sup>ダ</sup> マ<sup>ナ</sup>グ (スル) ふくろうが鉄砲におどろいて、丸い目をさらに丸くしたような目 (をする)。  
 「オ<sup>ボ</sup>ゲル」は「驚く」の意。
73. 口をとがらす ク<sup>ズ</sup> ト<sup>ン</sup>ガラ<sup>ラ</sup>ガ<sup>ス</sup>
74. 焦げ臭いにおい ス<sup>ナ</sup>ク<sup>セ</sup> 衣服が焦げる場合。 コ<sup>ン</sup>ビ<sup>ク</sup>セ ご飯が焦げる場合。
75. 遠廻り (をする) ト<sup>グ</sup>マ<sup>ワ</sup>リ («遠い」の終止形は「ト<sup>グ</sup>グ」または「ト<sup>グ</sup>グイ」、「近い」の終止形は「ト<sup>ツ</sup>グ」)
76. 末っ子 ゲ<sup>ッ</sup>バ<sup>バ</sup> («最後」「びり」の意)

※ (喩) チャモレ 後妻のこと。[チャモレーナッタ] (後妻に入った) <相手に先妻の子がいる場合に使う。相手に子供がいない場合はアトガワリという> (右)

「考」……『庄内方言辞典』によれば、他家の後妻に入って茶をもらうしかないという、女性への皮肉や軽蔑をこめた表現とある。

77. 一生懸命頑張る ランキナデヤル (「ランキナル」は「夢中になる」の意)

## Ⅶ (その他)

※ (喩) ヤマメまたはヤマメ 刃の目先が山の形をしている、初をこく人力の機械のこと。

※ (喩) アガドリ (垢取り) 布団に直接垢が付かないようにするという意で、敷布のこと。

※ (喩) アゲキモノ 一般に良い着物には赤いものが多いところから、子供が着る外出用の良い着物のこと。

※ (喩) タバゴ 仕事の間の短い休憩のこと。

※ (喩) ジョートーハグラソカエ (上等博覧会) (久) 上等なもの。良いもの。

[コレダバ ジョートーハグラソカエダ] (これは上等な品物だ)

## 考察

採集した比喩語が少数なので、分析は全国の資料を対象に行うことが望ましい。ここでは、気付いたことの二三を述べるにとどめる。

- ・語構成上は、「ザル」「ベンケー」のような単純語は稀であり、大部分は複合語である。複合語は、後部要素が名詞のもの(「ソマズラ」「クソヘビ」など)と動詞の転成形のもの(「ツズムグリ(土もぐり)」「カマギリオドリ」など)に二分される。また、別系統のものとして、直喩形式の比喩(「鼻水みたいだ(味が薄い)」など)がある。
- ・意味上は、形状比喩(「ソマズラ(馬面=かわはぎ)」「ケツマメ(尻豆=空豆)」など)、状態比喩(「カマギリオドリ(酒に酔って踊ること)」「ベンケー(酒の赤面)」など)、性質比喩(「ザル(大酒飲み)」「ニギリヤ(けち)」など)、ことばあそび(「カラマツヤロー・項目50参照)などに分類できそうであるが、今後の課題としたい。
- ・比喩語の定義も問題である。たとえば「さつまいも」「とうもろこし」の類、「流れ星」「ひきがえる」「マキカゼ(つむじかぜ)」の類は比喩語と言えるのかどうか(本稿ではこの種のものは比喩語に含めていない)、議論する必要がある。

(さとう りょういち フェリス女学院大学文学部)

(しのざき こういち 東京都立大学人文学部)